

## 1. 略歴

- 1979年 3月 東京芸術大学美術学部芸術学科卒業
- 1981年 3月 東京芸術大学大学院美術研究科芸術学専攻修士課程中途退学
- 1981年 4月 兵庫県立近代美術館学芸員
- 1995年 4月 同美術館学芸課長に昇任
- 1997年 4月 東京大学総合研究博物館助教授
- 2000年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2001年 4月 国立民族学博物館助教授併任（～2003年4月）
- 2004年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

文化資源学

### b 研究課題

幕末・明治期の造形表現の形成と変容と展開を、従来の美術史学の枠組みを離れて追跡している。既存領域である美術に隣接する写真、芸能、祭礼、見世物、民衆娯楽の領域に目を向けるとともに、それらの表現活動と社会の関係の解明にも取り組んでいる。評価されないものの実態と、それを評価しない仕組みの双方をも明らかにしたい。後者は当時の文化政策の研究へと展開するはずだ。開設時より関わった文化資源学専攻における新たな研究領域の開拓と構築に対し、こうした歴史的視点の導入を積極的に進めてきた。

### c 主要業績

#### (1) 著書

著書、『股間若衆 男の裸は芸術か』、新潮社、2012

#### (2) 論文

「Kisaburo, Kuniyoshi and the “Living Doll”」『IMPRESSIONS』31、Japanese Art Society of America、2010年、100～113頁

「台湾戦争図再々考」『近代画説』20、明治美術学会、2011 23-43頁

## 3. 主な社会活動

### (1) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

静岡県立美術館第三者評価委員、2006～

横浜美術館、アドヴァイザー、2008～

独立行政法人国立美術館、運営委員、2009.4～

東京都写真美術館、第三者評価委員、2010～

日本動物園水族館協会、広報戦略会議委員、2011～